

巻網のミニ船団第1号誕生

福島漁業 88物寶丸 石田丸 81石田丸

大中型巻網のミニ船団第一号船団が今年、相次いで竣工する。青森・八戸の株福島漁業が建造する第88惣寶丸、茨城・波崎の石田丸漁業が建造する第81石田丸である。半年に及び「漁船漁業構造改革推進会議」で検討の結果、昨年三月に取りまとめられた「中間とりまとめ」で優先して実現されるべき技術として掲げられていたもの。安全性、居住性の向上とともに「量重視から利益重視へ」を具現化し、画期的な漁船漁業の経営改善につながる事が期待されている。

相次ぎ竣工へ

福島漁業の建造する第88惣寶丸は三百ト。長さトリプレックスなどの効率的な構造を採用し、巻網漁船四船団をもつ。操業中の安全性、安定性を向上したうえ、乗組員が建造するのは、運航の部屋をオール個室化し、快適な居住空間をつくる。竣工を迎える予定となつた。小型と同等の漁網を使用している。

画期的な経営改善期待

うに、大型化されたのは、操業田丸、二百七十トで、長くつた。また、船体運動の安全性が向上した。ささ四十一・六四トの基礎となる復原力の問ではない。漁獲努力量を旧船と等量以下に設定する一方、二船団化の条件の一つとして、魚倉は二百五十立方を高め、今年六月で、運搬機能をもたせて、台の広さなども楽々クリを予定。最高速度は十四ノット。従来は八ノットと、漁網は八十

常、本船一隻、運搬船二隻、探索船一隻の計四隻で船団を組むが、新船となる第81石田丸は運搬を兼用。探索船兼運搬船と合わせて二隻で操業する。一船団四十一・四十五人だった乗組員は三十人に減る。投資総額は約十二億円だが、石田社長は「(前船の)八十ト型船団での年間最低水揚額は七億円だったが、新船の二隻体制では年間五億円でも採算が取れる」と、利益率を上げる漁法への転換を強調している。